



# 学校通信 赤坂小だより

令和7年度 第9号 R7.7.7

北九州市立赤坂小学校

校長 大成 清徳

## ☆学びを深める～ゲストティーチャーをお招きして

### 【5年生】世界の現実に目を向けて



◎7月4日(金)の5・6校時、5年生は、昨年度に引き続きNPO法人「ロシナンテス」の川原佳代様をお招きして、アフリカの人々の暮らしやロシナンテスの活動について体験に基づくお話を伺いました。



#### ◇ロシナンテスとは

病院がない。医者がいない。発展途上国には、厳しい現実がまだまだ存在します。ロシナンテスは、そのような地域に暮らす人たちに医療を届ける活動を続けています。医療施設のない村々を回って医療を提供し、国や地域と協力しながら診療所をつくり、給水所の整備や学校建設、栄養改善なども含めた包括的な保健事業を整備することで、現地の人たちだけで医療を継続できる仕組みづくりをしています。これまで主にアフリカのスーダン・ザンビアで活動し、人々が「医療」を自分たちのものにするための支援をしています。

(認定NPO法人ロシナンテス・ホームページより)

お話に出てきたアフリカの3つの国の国旗です。どこの国のものか、わかるかな？(正解は2面にあります)



◎川原さんからは、初めに、訪れたアフリカの3か国についてのお話がありました。それらの国の位置、国土の様子、首都の名前、使われている言葉、主な食べ物、身近に存在している動物など、日本とは違うそれらの国の姿を、写真や動画を交えて、興味深く話してくださいました。タンザニアで主食となっているトウモロコシが、日本とは違って甘くないこと。水力発電が中心のザンビアでは、雨が降らないため、長い時で1日に22時間も停電になったこと。イスラム教を信仰するスーダンでは、女性は人前で肌を見せたいけないことなど、知らなかったことばかりで、5年生は熱心にメモをとりながら、瞳を輝かせて聞き入っていました。



持参された民族衣装を、担任の先生方をモデルに披露した時には、大いに盛り上がりました。その後、子どもたちも衣装を羽織って、着心地や素材の手触りを確かめていました。日本と比べて暑さの厳しい国で生活する人々の知恵が詰まった衣装でした。次回までに3つの中から1つの国を選んで、調べ学習をする宿題が出されました。

◎続いて、ロシナンテスの歩みについて、お話がありました。2002年、北九州市出身の川原尚行さんは、大使館の医務官としてスーダンに赴任しました。しかし、日本政府は当時内戦中のスーダンへの援助を停止していたため、目の前で苦しむスーダンの患者さんを救うことが許されませんでした。川原さんは外務省を辞職して、スーダンで医療支援を始めました。これが、ロシナンテスの活動のきっかけです。ロシナンテスは、アフリカで医療施設のない村々を回って医療を提供したり、国や地域と協力しながら診療所をつくるだけでなく、給水所の整備や学校建設、栄養改善など、様々な保健事業を整備することで、現地の人たちだけで医療を継続できる仕組みづくりをしています。



◎日本に暮らす私たちが、当たり前と感じている日常の様々なことができない国があります。例えば、毎日何時間もかけて水のある場所まで水汲みに行かなければ手に入らないなど。こうした地域の人々のため、できることは何か。「医療」「水」「学校」の3つをテーマに、次回は具体的な支援活動についてお話を伺います。

## いね！ 日頃の心がけ

## 校内の風景から

## きちんと揃えて心も整える



さすがは6年生。よいお手本ですね。

1年生も立派に整理ができています。



◎校内を回っていると、整理整頓が行き届いている様子に爽やかな気持ちにさせられます。下足センターでは、子どもたちは自分の場所にきちんと靴を揃えて置いています。隣の傘立てにも、傘を巻いて掛けています。学級の廊下には、雑巾が並べて掛けられています。担任の先生の指導があつてのことですが、子どもたち一人一人の心掛けがなければできないことです。赤坂小の誇れる一面です。これからも、ずっと続けていきたいものですね。

◎トイレの入口には、長野市の円福寺住職だった藤本幸邦(ふじもとこうほう)さんの右の詩が掲示されています。藤本さんは、太平洋戦争で焼け野原になった東京で、親を亡くした子どもたちが生きるためにスリや置き引きなどをして暮らしている様子を心を痛み、自分のお寺で育てることにしました。

子どもたちの人数が20人、30人とだんだん多くなり、ある時玄関を見ると、脱ぎ捨てられた靴ばらばらになっていました。それを見た藤本さんは、子どもたちに「履き物をほったらかしておくと、また戦争になってしまいますよ。」と伝えました。このことがきっかけとなって、この詩が生まれたそうです。

自分の靴をそろえず脱ぎっぱなしにするという行動は、後から来る人のことをまったく考えていません。反対に、自分の靴をそろえることができる人は、他の人のことを考えて行動できる心をもっていると言えます。みんながそんな心をもつことができれば、きっと学校の中だけでなく、世界中が平和になることでしょうね。

### はきものをそろえること

はきものをそろえると ころもそろう  
ころろがそろうと はきものもそろう  
ぬぐどきにそろえておくと はくどきに心がみだれない  
だれかがみだしておいたら だまってそろえてあげよう  
そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう

## 大活躍！赤坂わいわい 広場の子どもたち

## 大盛況！赤坂ふれあいマルシェ

◎7月5日(土)10時から、赤坂市民センターで、毎年恒例の「赤坂ふれあいマルシェ」が開催されました。

朝の8時45分から赤坂小の菜園に集まったのは、赤坂わいわい広場の子どもたち。収穫した野菜を市民センターに運び、袋詰めをする班とPOPづくりをする班に分かれて作業をします。

館内には、キッズコーナーや余剰品バザー、体力測定などのコーナーが設けられていました。10時からのオープニングセレモニーの後、子どもたちは、早速2階のキッズコーナーに集まり、トリコロキューブ、シャッフルゴルフ、ダーツ、ブルズトスゲームの4つのゲームに挑戦です。全種目をクリアしたら、私(校長)とジャンケンです。勝ったらうまい棒2本、負けたら1本の1回勝負、大いに盛り上がりました。

11時からは、わいわい広場の子どもたちによる野菜の販売です。トマト、キュウリ、玉ねぎ、ジャガイモ、ナスビ、にんにく、カボチャなど、採れたての野菜を「いらっしゃい！」と元気よく呼びかけて、販売します。毎年恒例の行事ということもあって、地域の方も大勢買いに来られ、あっという間に完売した野菜もありました。最後まで頑張った子どもたちは、満足そうな笑顔を浮かべていました。地域のみなさん、ありがとうございました。



<1面の答え>

A:ザンビア、B:スーダン、C:タンザニア